人生感と仕事感

地球の裏側のウクライナで悲惨な戦争が起きています。世の中には本当に理解出来ない不合理的な事が起こります。

何故この様な戦争が起きるのか、何度考えても分かりません。日本がもし同じ様に攻められたら、ウクライナと同じ様に戦えるのか自信がありません。私たちはいろいろな問題を通じて根源を考える機会を得ます。先日何の為にチラシをお届けするのか、何の為にお試しするのかをお届けしました。何故戦争が起きるのか、何の為に仕事をするのか、何の為に生きているのか、毎日の生活、仕事に埋没しているときは考えもしませんが、根源を考える事はとても重要です。3月17日の採用関連打ち合わせミーティングで、何故希望を持って入社して頂いたのに、退職せざるを得なくなるのか。何が原因かとの議論を行いました。店の雰囲気、コミュニケーション、いつも気にかける、相手の事を理解、愛を持って接する、本音と建前、人は認めて貰いたい、声をかける、店長が忙しすぎるなどなどの意見が出ました。この中で思ったことは心の体温と人間的成長です。心の体温が高ければ、少々イヤな事でも通り過ぎます。体温が低ければ少しのつまづきでも挫折します。自らの生き方、仕事への姿勢、自己成長が、仕事を続けられるかどうかに関連しています。当然毎回お知らせしている様に、仕事の意味を理解する必要はありますが、それと共に、何の為に生きているのかも車の両輪です。

3/16の朝日新聞の投書欄にある13歳の投書についての特集が掲載されました。

死を思うことは恐ろしいけれど2月7日=要旨 中学生吉川結芽（大阪府13）
「死んだら、どうなるんだろう。私はよく、考える。天国や地獄が本当にあつて、そこで存在し続けるなら、そう願いたい。けれども、私の意識も、心も、何もかも永遠に消え失せてしまうとしたら・・・。私は、底なし沼に沈んでいくような恐怖に襲われている。まわりの友人に聞いてみるとやはり、恐ろしくて考えるのをやめるといふ。この恐怖からどう逃げたらいいんだろう。大人になったら、怖くなるのだろうか。死は生き物すべての宿命だと改めて思う。生きるということは、死へ近づいていくこと。恐ろしいが、しかしそれに気づいたからこそ、この命を何かのため、だれかのために使い切りたいとも思う。死ぬとき、私は十分に頑張ったと思える人生にしたい。そのために、私はどうしたらいい？答えを見つけるべく、生きていこうと思う。」

みなさんどう思いますか

たった13歳の子供の文章です。でも悔ってはいけません。私たちは本質から目を逸らし、毎日何だか誤魔化して生きてませんか

やはり、人生感と仕事感は車の両輪です。

是非一度みんな立ち止まって、よくよく考え、価値ある仕事、価値ある人生を送れる私たちに是非ともなりたいと思います。

入社してくる新人に、是非仕事の意味を伝えて下さい。

そして人間的に成長出来る会社になるのです。

人間的に成長している実感がなければ辞めたくなくなります。

人が辞めない会社、意味のある会社、存在感のある会社、自らが成長出来る会社。

株式会社ほづみに在籍している全ての方々が、心の体温を高め、自己成長し、少しぐらいの困難にはビクともしない、嬉しく楽しく仕事出来る暖かくて厳しい、切磋琢磨の環境を是非とも創りたいと願っています。